



## 山に捨てるものなし！ 地域内エネルギー自給システムの構築

■キーワード：木質バイオマス、林地残材の活用

■活動時期：通年

■主な活動メンバー

(株)伊藤林業、仁淀川森林組合、NPO 法人土佐の森救援隊、  
(株)ソニア、カワサキプラントシステム(株)

【ホームページ】

<http://www.town.niyodogawa.kochi.jp/>

### (取り組み内容)

仁淀川町ではNEDO（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）の協力を得て、林産時に発生する林地残材や間伐未利用材等の有効活用を図りながら、活力ある森林の再生とエネルギーの地産地消、地域循環型社会の実現を目指している。そのため、木質バイオマスによる発電や木質燃料が使える設備等を取り入れ、仁淀川流域における森林資源の「エネルギー自給システムの構築」実験事業に平成17年から取り組んでいる。

#### ① 収集運搬システム

大・中・小規模の3種類の林産方法に応じた収集体制で実施。

#### ② エネルギー転換・利用システム

木材を燃料にしたガス化発電設備と、チップを圧縮成型した木質燃料ペレットの製造設備を備えた複合施設で、電気・熱・ペレットを生産。

#### ③ エネルギーの最終利用システム

電気はエネルギー転換設備に隣接する製材会社「株式会社ソニア（仁淀川町、佐川町、越知町の3町等で作る第3セクター）」の工場内にある製材機械の動力としている。

熱（蒸気）は、製材乾燥機に供給する。

ペレットは、近隣の佐川町内の温水プールや仁淀川町内の温泉施設、福祉施設の暖房・給湯用、農業ハウスの暖房用ペレットボイラーの燃料として供給している。

### ◆成果

各設備の性能を高め、効率的な運用ができています。また、エネルギー最終利用システムのペレットを燃料とする給湯・暖房システムも3施設で稼働、農業ハウスでの利用もあり、多分野において利活用が広がりつつある。これより、地域住民のエネルギーの意識の変化がみられつつある。

### ◆取り組みを進めるためのポイント

豊富な森林資源を活かそうと始まった事業であるが、低コスト化を推進し、経済的に成立するために、林地残材や間伐材等の収集運搬コストの抑制、チップ化の経費の軽減などが今後のポイントとなる。

### ◆今後の展望

川上における小規模な林地残材や間伐材の受入が拡大され、川下地域内のペレット利用の促進につながり、これより、林業、製材業、バイオマスエネルギー供給業の伸張が地域の活性化につながる。

その結果、温室効果ガスの排出量削減につながる新しい仕組みを構築したい。

### ◆県民の皆さんに一言

高知県においても、林業の構造転換が図られ、各地域での森林振興や雇用の創出等とともに、他の地域への波及効果を期待している。